

科目名 クラス名	児童学概論		
科目名（英語）	児童学概論		
担当教員名	横井 紘子、大宮 明子、潮谷 恵美、鈴木 康弘、長田 瑞恵、向井 美穂、土屋 由、渡邊 孝枝、名達 英詔、藪崎 伸一郎、権 明愛、近藤 有紀子、曾野 麻紀、金 允貞		
ナンバリング	EAa0001		
学科	2024年度 大学 教育人文学部 幼児教育学科 1年／2024年度 大学 人間生活学部 健康栄養学科 1年		
学年	1年	開講期	2024年度前期
授業形態	講義	単位数	2単位
遠隔授業対象科目			
振替元科目			

実務経験の有無	有
実務経験および科目との関連性	保育や教育、福祉の分野における実務経験のある教員が現場での視点を交えながら「子ども」について多面的に理解を得られるよう講義を行う。

ねらい		
①科目の性格	本科目は幼児教育学科の専門科目「保育・教育の本質」に該当する卒業必修科目である。 入学後最初に学修する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習領域を概観する内容となっている。学科専任教員それぞれの専門領域や研究内容を知ることを通して、幼児教育学科専門科目への学びに結び付けていく。	
②科目の概要	児童学とは「子ども」を様々な角度から研究する学問である。オムニバス形式の科目であり、本年度は『子どもと遊び』というテーマのもとに、様々な専門性や学問的背景をもつ本学幼児教育学科専任教員が各自の視点から講義を行う。	
③授業の方法（ALを含む）	本科目では、テーマの『子どもと遊び』に沿った講義による解説を中心としながら、適宜ディスカッションを取り入れる。各回の授業後にはリアクションペーパーを記入する。 本科目の最後には試験を行い、講義内容をもとに、レポートを作成する。	リアクションペーパー／レポート／ディスカッション
④到達目標	1. 「子ども」イメージを問い直し、子どもについて新たに修得した内容や知識をふまえて、自身の考えを述べることができる。 2. 子どもの人権に配慮する視点、子どもに対する共感的な視点を持ち、自身の考えを記述することができる。 3. 「子ども」という窓を通して、社会の現状や課題について理解し、その内容をまとめて説明することができる。	
⑤ディプロマ・ポリシーとの関係（右の資質・能力を育成することを目的とする）	【対自己-EA1】;保育・教育の基礎理論の修得、【対人-EA1】;子どもの人権に対する意識と子どもへの共感的理解、【対課題-EA1】;保育・教育をめぐる社会的な諸課題への理解	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定教科書なし				
推薦書・参考文献				
各担当教員が講義の中で、参考図書の紹介や資料の配布を行う。				

履修上の助言、教員からのメッセージ	幼児教育学科専任教員ほぼ全員の講義が受けられる貴重な科目です。欠席をしないように。大学で学ぶとはどういうことかを知り、視野を広げ、興味や関心をより深めてください。 正当な欠席事由で定期試験を受験できなかった学生に対して「追試験」を実施し、定期試験等で合格点に到達しなかった学生を対象に「再試験」を行います。
-------------------	--

第1回			
事前学習	シラバスをよく読んで事前準備をしておく。		45分
授業内容	横井：ガイダンス		
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。		180分
第2回			
授業内容	曾野：子どもの遊びから見えること・分かること 【リアクションペーパー】		

事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 3 回		
授業内容	渡邊：子どもの遊びの中の身体表現―「なりきる」ことについて考えよう―【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 4 回		
授業内容	大宮：子どもの遊びと生活と学び【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 5 回		
授業内容	向井：遊ぶことで育つ子ども【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 6 回		
授業内容	土屋：子どもの頃を遊びを振り返る 取るに足りない遊び・“名も無い遊び”に注目して【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 7 回		
授業内容	名達：子どもがつくるということ【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 8 回		
授業内容	金：乳児の権利を考える【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 9 回		
授業内容	潮谷：こどもの遊びに必要な環境【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 0 回		
授業内容	鈴木康弘：子どもの身体を使った遊びと社会【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 1 回		
授業内容	長田：子どもの心と遊び【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 2 回		
授業内容	近藤：「遊び」からみる子どもの世界 【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 3 回		
授業内容	薮崎：歌をともなった子どもの遊びについて【リアクションペーパー】	
事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 4 回		
授業内容	権：子どもの遊びの魅力【リアクションペーパー】	

事後学習・次回事前学習	授業で学んだ内容を復習する。 事前に配布された資料を読んで予習する。	180分
第 1 5 回		
授業内容	横井：まとめ【レポート】	
事後学習	授業で学んだ内容を総まとめする。	90分

フィードバック	提出された課題には、授業時間内もしくは授業後にコメントする。	
評価方法および評価の基準	授業への参加度・学修活動（30％）、リアクションペーパー（20％）、最終レポート(試験)（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。 到達目標 1．授業の参加度・学修活動（10％/30％）リアクションペーパー（10％/20％） 最終レポート(試験)（20％/50％） 到達目標 2．授業の参加度・学修活動（10％/30％）リアクションペーパー（5％/20％） 最終レポート（試験）（15％/50％） 到達目標 3．授業の参加度・学修活動（10％/30％）リアクションペーパー（5％/20％） 最終レポート（試験）（15％/50％）	

ループリック		評価基準				
DP	評価項目	【S】到達目標以上に達している	【A】到達目標を十分に達成できている	【B】到達目標を達成できている（到達目標）	【C】到達目標を最低限度は達成できている	評価方法
【對自己-1】保育・教育の基礎理論の修得	理解度 40%	素朴な「子ども」イメージを問い直し、子どもについて新たに修得した内容や知識を適切にふまえて、独自の視点をふまえながら、自身の考えを詳細に述べることができる。	素朴な「子ども」イメージを問い直し、子どもについて新たに修得した内容や知識を適切にふまえて、自身の考えを詳細に述べることができる。	素朴な「子ども」イメージを問い直し、子どもについて新たに修得した内容や知識をふまえて、自身の考えを述べることができる。	素朴な「子ども」イメージを問い直し、子どもについて新たに修得した内容や知識の一部をふまえて、不十分さはあるがそれなりに自身の考えを述べることができる。	授業の参加度・学修活動 10％ リアクションペーパー 10％ 最終レポート(試験) 20％
【対人-1】子どもの人権に対する意識と子どもへの共感的理解	子どもに対する基本姿勢 30%	子どもの人権に配慮する視点、子どもに対する共感的な視点を十分に獲得したうえで、具体的な場面や事例に即して深く考察し自身の考えを記述することができる	子どもの人権に配慮する視点、子どもに対する共感的な視点を十分に獲得したうえで、自身の考えを記述することができる	子どもの人権に配慮する視点、子どもに対する共感的な視点を持ち、自身の考えを記述することができる	子どもの人権に配慮する視点、子どもに対する共感的な視点到欠ける部分があるが、これらの視点を最低限度持ち合わせたうえで、自身の考えを記述することができる	授業の参加度・学修活動 10％ リアクションペーパー 5％ 最終レポート（試験）15％
【対課題-1】保育・教育をめぐる社会的な諸課題への理解	社会の現状と諸課題に対する理解 30%	「子ども」という窓を通して、社会の現状や課題について十分に理解し、自主的に学修した内容を含めながら、その内容を詳細に説明することができる	「子ども」という窓を通して、社会の現状や課題について十分に理解し、その内容を詳細に説明することができる。	「子ども」という窓を通して、社会の現状や課題について理解し、その内容をまとめて説明することができる。	「子ども」という窓を通して、社会の現状や課題をある程度理解し、その内容の一部を説明することができる	授業の参加度・学修活動 10％ リアクションペーパー 5％ 最終レポート（試験）15％